

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成24年7月31日現在

今月の重点活動

■えだまめ えだまめ収穫体験開催！

・7月14日（土）に岐阜市曾我屋のJAぎふえだまめ選果場に隣接する防虫ネット栽培展示ほ場14aで、「岐阜えだまめ」収穫体験が行われた。今年で4回目を迎え、約900名の消費者へ岐阜えだまめのPRを行った。

当日は、食農教育の一環として、岐阜女子大学の学生11名も参加した。



【収穫体験の様子】

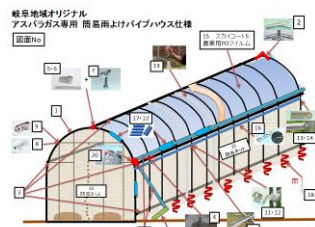
活力ある新産地づくり

■品目 アスパラガス

岐阜地域オリジナルの「アスパラガス専用簡易雨よけハウス」が誕生！その2

低コストで導入負担が少ない、岐阜地域オリジナルの「アスパラガス専用簡易雨よけハウス」が形になって現れました。7月下旬に、10棟（9a）のハウスを完成させ展示実証試験を始める。

この独自のハウスは、コストパフォーマンスが高い上に、雨による茎枯病の発生回避と防虫ネットで害虫の侵入を抑える仕様となっており、立茎栽培により安定した収量が期待される。



银杏園を開墾
5月中旬



整地し土作り
6月中旬



資材搬入
6月下旬



ハウス建設開始
7月上旬

売れる農畜産物づくり

■岐阜地域朝市・夜市連合 直売所研修会開催

7月4日に岐阜地域朝市・夜市連合では豊かな品揃えに向けて、作期拡大をテーマに農産物直売所研修会を開催した。

大手種苗会社の担当を講師に招きアブラナ科野菜を中心に品種の使いこなしと管理について講演があった。

また、農業普及課からは、農薬安全使用と人気品目の1つである小菊の栽培管理についても指導したところ、地域での研修会を依頼されるなど好評であった。



【直売所研修会の様子】

■かき 大玉生産に向けた摘果の徹底！

・7/7～8/2にかけて、管内各産地で摘果講習会が開催された。今年は着果も良好で生理落果も少ないことから、大玉生産にむけた摘果の徹底を指導した。

かきの生育は春先の低温の影響で遅れていたが、天候にも恵まれ肥大状況も平年並みまで回復しつつある。さらにカメムシが多発傾向にあり、注意喚起を行った。



【摘果講習会の様子】

■花き 国体花飾り用花壇苗生産始まる

・ぎふ清流国体、大会のメイン会場周辺花飾り用として花壇苗のセル苗配布が7/12から始まり、管内の7名の生産者で810プランター（約8000株）の生産が行われる。併せて近隣6小中学校へ配布用花壇苗約6,500鉢についても生産が始まった。普及課としては、国体に合せた管理を行うよう濃密指導を行う。

戦略的な流通・販売

■品目 いちご ぎふいちごとお菓子屋さんがコラボ！

・JAぎふ岐阜市いちご部会と岐阜市にある菓子会社「長良園」が岐阜県農商工連携ファンド事業を利用し、連携を強化することとなった。長良園の主力商品としていく「信長の赤」に「濃姫」いちごを使用することから始まった連携であるが、今後は岐阜の代表的な商品として、全国進出するために、今後は一緒にPR活動などを行っていく。



【お菓子会社との打合せ】

多様な担い手の育成・確保

■指導対象等 若葉マーク女性研修会

・7月13日、これまで農業及び農家生活の経験が少なかった女性（わかばマーク）を対象に、地域のリーダーとして活躍する女性農業経営アドバイザー2名が講師となり、料理講習と農家生活に対する意見交換を行った。

わかばマークの参加者は10名で、共通の話題も多く仲間意識の醸成ができた。次回は2月に開催。



【料理実習の様子】

■能郷営農組合 本巣市根尾能郷で営農組合設立

7月18日に本巣市根尾能郷で営農組合の設立総会が行われ、「能郷営農組合」が設立された。組合員は6名で70代が中心となる。総会には組合員や関係者ら約30人が出席。営農組合の設立によって集落内の水稻農家全戸（6戸）が共同で農業機械を所有し、そのオペレーターとして農業を行うことで高齢化による離農と耕作放棄地増加に歯止めをかける事が期待される。



【設立総会の様子】